

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	長崎大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	ナガサキダイガク
	大学等名1(代表大学等)学校所在地	九州地方
	大学等名1(代表大学等)学校種別	国立大学
	大学等名2(連携大学等)	
	大学等名2(連携大学等)学校所在地	
	大学等名2(連携大学等)学校種別	
	科目名	学外実習及び見学
	学部・研究科等名	工学部工学科社会環境デザイン工学コース
	担当教職員名・役職	大嶺聖・教授
要素①	受講者数(H29年度実績)※インターンシップ参加者数	45
	受入企業等数	21
	受入企業等名	・官公庁(国土交通省、長崎県、長崎市、佐賀県、熊本県、鳥取県、飯塚市など)・建設会社(鹿島建設、五洋建設、前田建設工業、熊谷組、西松建設、ピーエス三菱など)・建設コンサルタント(建設技術研究所、ニュージェック、中央コンサルタント、ダイヤコンサルタント、東京建設コンサルタント、復建調査設計、扇精光コンサルタントなど)
	インターンシップの分類	8.大企業・グローバル企業でのインターンシップ 9. 中小企業でのインターンシップ
	上記以外のインターンシップの分類(記述欄)	
	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事
	1-2.で「3.その他」の就業体験の内容(記述欄)	
	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	建設現場、事務所および工場等に出向き、実務の問題に直面することによって、「大学内で教わって得た知識が現実の社会ではどのように活かされているか」について理解を深める。さらに、学生が自己の職業適性および将来設計について考える機会を与えたとともに、主体的な職業選択と高い職業意識の高揚を図ることが本科目のねらいである。
	要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。
2-2.該当するインターンシップの内容		3.当該インターンシップは、専門教育科目として実施している 4.当該インターンシップは、必修科目として実施している 8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
2-2.「9.その他」で実施しているインターンシップの内容(記述欄)		
2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)		3年次
2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)		1単位
2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)		建設現場、事務所および工場等に出向き、実務の問題に直面することによって、「大学内で教わって得た知識が現実の社会ではどのように活かされているか」について理解を深める。さらに、学生が自己の職業適性および将来設計について考える機会を与えたとともに、主体的な職業選択と高い職業意識の高揚を図ることが本科目のねらいである。
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている 4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている
	3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	
	3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	キャリアセミナーの授業で、各業界の事業内容等に関する事前の調査を行っている。また、各業界の卒業生を招いて、話を聞く機会を設けている。その中で、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している。
3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	日報やレポート等を用いて、職場の担当者に評価をお願いしている。また、インターンシップの感想文を提出させて、現場での体験の振り返りを行っている。	

	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている
	4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	レポートと感想文の作成をインターンシップの実施後に行い、インターンシップの成果について確認を行っている。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実施期間10日間
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.「4.その他」の実施期間の内容(記述欄)	
	5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	2週間(実働10日間)以上の実施期間を確保している。
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している
	6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	別途提出済み。
問い合わせ先	大学等名	長崎大学
	担当部署名	学生支援部教育支援課教育支援班
	担当者役職名	主査(教務)
	担当者氏名	多田拓朗
	電話番号	095-819-2075
	メールアドレス	gakumuka@ml.nagasaki-u.ac.jp